第5回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会
議事要旨

日時　平成25年5月17日（金）14:00～
場所　健康福祉会館4階多目的ホール

［議事］

１．リニアのまちづくりビジョン（案）について

２．今後の進め方について

［主な意見］

議題１　リニアのまちづくりビジョン（案）について

（JR東海説明会の内容に関して）

○山梨県駅の場合は在来線の乗り換えを考慮しなくていいものであり、中津川の場合は、2F、1Fは変わってしかるべき。1Fに利用客を降ろしてしまわないということを主張していく余地があるのではないかと考える。

（ビジョン案に関する感想・意見）

○まちづくり協議会や商工会青年部のスタッフが熱心に検討をしていた。ビジョン案について特別な意見はない。ストロー効果の話もあるが、東京に行ける、東京から来られるという点からも地域が画期的に変わることを期待している。

○ビジョン案には、女性・若者委員会の考え方がうまくちりばめられていると感じている。実現の仕方をどう進めていくかが課題と考えている。

○ビジョン検討という機会により、中津川の住民がまちづくりについて考えるきっかけになったことが良かったと思っている。このビジョン実現に向けての課題は多いが、それをどう解決していくかについては住民の皆さんの協力が大事となる。リニアのまちづくりのスタート地点に立った気がする。実現までには時間がかかるが、中津川らしいまちとして発展していくといい。

○今回のビジョンは、幅広い年代や地区の状況に対しての取り組みが入っており、内容は濃く良い内容になっていると感じている。このビジョンを活かして、これまでの中津川の中から見た検討から、今度は外に発信していくことが重点的な課題であると考える。また、取り組みを進めるにあたり、外から見た視点も考えながら取り組む必要がある。

○このビジョンをどう取り組んでいくのか、財源をどう考えるのかといった話が出た。このことを、どう広めていくかが課題だと考えている。

○外に対してどうやって知っていただくか、広報の在り方があると考えており、広報活動は早目早目にいろいろな形でやっていくことが必要であると感じている。

○会社では、特に売る方でお客さんが工場に来やすくなることがメリットとなり、ビジネスチャンスが広がることに期待している。また、東京の本社では宇都宮や静岡からの新幹線通勤者もおり、リニアが開業すればコスト面の問題はあるが、中津川－東京も通勤圏になるのが魅力的と考える。

○このビジョン案は完成度が非常に高く、直すところがないと思っている。

○駅構造については河口堰か防潮堤のようなイメージがあり、100.101 ページのイメージ図と

かけ離れている。高架下をどのように加工して地元として魅力あるものにしていくかというイメージがほしい。また、高架下は、賃借可能というが、ガード下ではお金を取って貸すのかといった地元の意見もあった。駐車場や倉庫となる場合が考えられるが無料でも良いのではと思う。

○駅の外装をどうするかは、提案の余地があるので、考えていかないといけない。

○今の新幹線料金よりも高いとなかなか東京には行きづらい。公共の足として行きやすい料金設定になってほしい。

○リニアは世界でここにしかないので、乗ってみたい需要も含めて大勢の外国人が来るだろう。ビジョンの中に少しずつ書かれているが、ここに書かれている以上に中国、韓国をはじめ、新興国からの外国人の来訪を想定すると、中津川を挙げてその対応力を高めておくべきではないか。

○商工会議所では「リニアの見える丘公園」を作りたいと考えており、どこに作るかを検討している。リニアの路線上にはフードがかぶせられ、リニアを見ることができない可能性があるので、ゆっくりと動くリニア、スピードのあるリニアがみられるように進めていきたい。

○リニアが来るから待とうよといったようなリニアを先送りの枕詞にしないように、半歩前へ出たいろいろなことを進めなければいけない。道路問題をはじめ、恵那市と中津川市が事務レベルの連携をとって結束していかないといけない。

○このビジョンの内容をみると多くの意見が集約されていて重みがある。一昨年にリニアが中津川を通ると公表されたがそのときはなんぞやといった感じであったが、1 年前に第 1 回の会合があり、今回、この駅イメージがある。具体化してきており、いよいよ本格的となる。正式に位置が決まればさらに現実性が加速する。ビジョンは先を見据える上でとても大事なものである。このビジョンを大事にしながら変化に対応していきたい。今後、どのように取り組んでいくのか、具体性を持たしていくのかが課題となる。

○ビジョンについては多くのみなさんに協力いただき、お礼申し上げる。これをいかに具現化していくかが重要と考えている。今後、総合計画との整合を図って取り組んでいきたい。

○金沢では北陸新幹線が 2015 年春に開業予定であり、駅前広場が建設されていた。金沢市でリニアの岐阜県駅が出来ますと話をしたら「馬籠にいくので中津川市のことは知っている」とのことで、ありがたく思った。”新しい金沢、はじまる”のキャッチコピーで宣伝している。また、姉妹都市である長崎県対馬市でも同様に聞いてみたが誰も知らない。しっかりしたロゴ、キャッチコピーで、訪ねてよし、住んでよしの中津川にしていきたい。

○理念のキャッチコピーについて、リニアの総合車両所ができる、帰ってくるところがあるという”ホームタウン”という表現は良いと思う。ただ、若干、保守的な感じを受けた。自分たちの町を良い町と思っているからかも知れないが、「大きく変わって欲しくない」、「よいところを残していきたい」という感じが強いように感じる。この際、まちとして外の地域に向かって、「中津川」を表現できるようにしていくことが重要と思っている。飯田市のキャッチコピーは”小さな世界都市飯田”。この意味としては、「飯田に住んで欲しいが、飯田で育った人たちが世界にも出て欲しい。そして、自分の郷里の良さがわかるので、もう一度戻ってきて欲しい。」こういう地域にしたいとの思いがあるとのこと。もちろん地域の気質に違いがあって良く、この真似をせよと言うことはないが、出て行く人を押さえるという地域づくりではなく、発展的な姿勢を前面に出したまちづくりにした方がよいと考える。これから総合計画の見直しが始まり、都市マスタープランに結びつけるときに、積極姿勢を念頭にしていくとよいのではないか。

○今後、ビジョン案については、パブリックコメントを行い、市民に見ていただいて、案としてまとめることとなる。このビジョン案について異議はあるか。

（異議無し）

議題２　今後の進め方について

（事務局説明）

○パブリックコメントは 6 月中に 2～3 週間掛けて意見を頂戴して、とりまとめて、細かな修正点は 8 月 2 日に予定している策定委員会で提示し、それを最終とすることを考えている。

（特に意見なし）

－了－